

令和7年度 事務事業マネジメントシート

1 事業概要		中事業番号		757										所属コード		263000	
政策体系		SDGs	広域事業	総合戦略	セーフ	2025	2030	2040	2050	D X 推進	手段		意図 (目的)				
大綱 (取組)	1 「産業・仕事の未来」	2.3	○	2-3	○						市民等を対象に、農作物の補付・除草・収穫作業などの農業体験の機会を提供する。 また、農業者が補助を必要とする栽培管理作業の講習会を開催する。		農作物栽培の作業体験を通じて、食と農に対する理解の深化を推進する。また、農作業が集中する時期の栽培管理作業を補助する人材を育成する。				
施策	3 農林業が盛んで、市民の身近な産業となるまち																

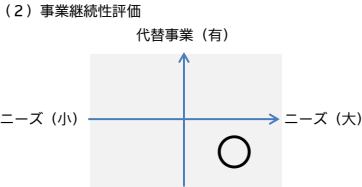
事業開始時周辺環境 (背景)		現状周辺環境		今後周辺環境 (予測)		住民意向分析	
国内外の農業を取り巻く環境が厳しさを増し、従事者の高齢化や減少に伴い、農業における労働力不足が進んでいる。 消費者の食の安全・安心に対する関心とともに、農業体験や地元農産物への関心が高まっている。		生命・健康に直結する食料の安全・安心と需給について関心が高く、関連して農業に対しても関心が高い状況である。 農業における機械化・DX化により省力化が進んでいるものの、人の手が不可欠な作業についてはマンパワーが必要とされている。		食と農に対する関心は引き続き高く、都市化の進む中で農業体験ができる機会は市民にとって貴重であり一層必要とされる。 人の手が必要な農作業を効率的に行うために、野菜・花き、果樹についての知識と作業技術を有する人材が引き続き求められる。		農業体験や講習会の参加後アンケートでは、満足度は高く、また、今後の継続を望む意見も多くニーズは高い。	

2 事業進捗等 (指標等推移)			まちづくり基本指針五次実施計画		まちづくり基本指針六次実施計画		まちづくり基本指針七次実施計画		まちづくり基本指針八次実施計画		次期実施計画		次期実施計画		まちづくり基本指針	
指標名	指標名	単位	2022年度 (令和4年度)		2023年度 (令和5年度)		2024年度 (令和6年度)		2025年度 (令和7年度)		2026年度 (令和8年度)		2027年度		2028年度	
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績
対象指標	市民	人		324,586		322,515		319,680								
活動指標①	ふれあい体験農園の開催数	回	4	4	4	4	4	4	4	4	0		0		0	
活動指標②	農業支援人材育成研修の開催数	回	9	9	9	9	9	9	9	9	9		9		9	
活動指標③			4	4												
成果指標①	ふれあい体験農園の参加者数	人	384	449	444	421	420	424	420		0		0		0	420
成果指標②	農業支援人材育成研修の参加者数	人	16	23	16	20	16	9	16		16		16		16	16
成果指標③		人	16	20												
単位コスト (総コストから算出)	ふれあい体験農園等への参加者1人あたりのコスト	千円		23		17		16	22		—		—			
単位コスト (所要一般財源から算出)	ふれあい体験農園等への参加者1人あたりのコスト	千円		23		17		16	21		—		—			
事業費		千円		418		442		499	442		5,000		200		200	
人件費		千円		10,555		6,635		6,474	8,595		8,595		5,000		5,000	
歳出計 (総事業費)		千円		10,973		7,077		6,973	9,037		13,595		5,200		5,200	
国・県支出金		千円				0		0	0		0		0		0	
市債		千円				0		0	0		0		0		0	
受益者負担金 (使用料、負担金等)		千円		120		119		238	240		0		500		500	
その他		千円				0		0	0		0		0		0	
一般財源等		千円		10,853		6,958		6,735	8,797		13,595		4,700		4,700	
歳入計		千円		10,973		7,077		6,973	9,037		13,595		5,200		5,200	
		実計区分	評価結果	継続	継続	継続	継続	継続	継続							

活動指標分析結果		成果指標分析結果		総事業費 (事業費・人件費) 分析結果	
○ふれあい体験農園の開催数は4回、農業支援人材育成研修の開催数は9回となり計画通りであった。		○ふれあい体験農園の参加者数は424人 (119組) でほぼ計画通りであったが、農業支援人材育成研修の参加者数は9人となり、計画を下回った。		【事業費】 ○物価高騰に伴う農業用資材の高騰等により事業費が増加した。	
				【人件費】 ○ふれあい体験農園にかかる栽培管理や農業支援人材育成研修事業推進に係る人件費は昨年度と比較してほぼ横ばいとなった。	

3 一次評価 (部局内評価)

(1) 事業手法評価		
1 規模・方法の妥当性		3
2 公平性		4
3 効率性		3
4 活動指標 (活動達成度)		4
5 成果指標 (目的達成度)		3



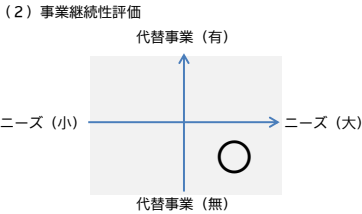
継続	一次評価コメント
ふれあい体験農園は、農作物を育て収穫する喜びを体験できることから、参加者が多く、市民の関心が高い事業である。また、農業支援人材育成研修は、農業を補助的に支援する人材の育成を図る事業であり、農作業を担う人材の育成とともに、市民の農作業体験の場を求めるニーズに合致した事業となっている。	

5レス	カウンターレス	キャッシュレス	ペーパーレス	ファイルレス	ムーブレス (会議レス)
	○				

気候変動対応	D X (デジタル市役所)	部局間協奏
	○	○

4 二次評価

(1) 事業手法評価		
1 規模・方法の妥当性		3
2 公平性		4
3 効率性		3
4 活動指標 (活動達成度)		4
5 成果指標 (目的達成度)		4



継続	二次評価コメント
ふれあい体験農園は例年通りの参加者を確保できている一方、農業支援人材育成研修の参加者数が昨年度比で減少 (20人→9人) しており、よりニーズに合った研修内容や広報の見直しが必要である。 農業の普及啓発のためには、市民に対し、農業体験を通じて農業の魅力発信をしていく必要があることから、継続して事業を実施する。 なお、農業支援人材育成研修の参加者は減少しており、かつ研修後の補助員 (アグリサポーター) を必要とする農業経営者も減少していることから、より効率的かつ効果的な事業の実施方法について検討が必要がある。	

(参考) 令和6年度カイゼンのための行動計画	